

マルコ イエズスキリストせいふくいんしょ 馬可の耶穌基督聖福音書

第一篇 キリストの公生活

第一項 キリストの先駆者

第一章 神の御子イエズス、キリストの福音の始、二預言者イザヤ「の書」に録して、看よ我わが使を汝の面前に遣はさん、彼汝の前に汝の道を備ふべし。三荒野に呼はる人の聲ありて、曰く、汝等主の道を備へよ、其徑を直くせよ」とあるが如く、四ヨハネ荒野に在りて洗し、且罪を赦されん為に、改心の洗禮を受けん事を宣教へしが、五ユデアの全地方及エルザレムの人、皆彼の許に出來り、己が罪を告白して、ヨルダン「河」にて彼に洗せられ居たりき。六ヨハネは駱駝の毛織を着、腰に皮帯を締め、蝗と野蜜とを食し居りしが、宣教して云ひけるは、七我よりも力ある者我後に來り給ふ。我は屈みて、其履の紐を解くにも堪へず、八我は水にて汝等を洗したれども、彼は聖靈にて汝等を洗し給ふべし。と。九斯て當時イエズス、ガリラアのナザレトより來り、ヨルダン「河」にてヨハネに洗せられ給ひしが、〇臆て水より上り給ふや、天開け、一聖一靈鳩の如く降りて、我上に止り給ふを見給へり。二又天より聲して「曰く、汝は我愛子なり、我汝に因りて心を安んぜり。と。三」聖一靈直に彼を荒野に往かしめ給ひしが、三四十日夜荒野に在りて、サタンに試みられ、野獸

と共に居給ひ、天使等彼に事へ居たり。

第二項 キリストの宣教の初

一四ヨハネの囚はれし後、イエズス、ガリラアに至り、神の國の福音を宣傳へて、一五 日ひけるは、期は満ちて神の國は近づけり、汝等改心して福音を信ぜよ。と。一六 斯てガリラアの湖邊を過ぎ給ふに、シモンと其兄弟アンデレアとが湖に網打てるを見て、即ち漁師なりき。一七 イエズス彼等に向ひ、我に従へ、我汝等を人を漁る者と成らしめん、と日ひしかば、一八 彼等直に網を捨て従へり。一九 尚少しく進み給ひて、ゼベデオの子ヤコボと其兄弟ヨハネとが、亦船の中に網を補ひつつ居るを見て、二〇 直に彼等を召し給ひしに、彼等其父ゼベデオを、雇人と共に船に舍きて従へり。二一 一同「カファルナウム」に入りしが、イエズス臆て安息日毎に會堂に入りて教へ給ひければ、二二人其教に驚き居たり。其は律法學士等の如くせずして、權威ある者の如くに教へ給へばなり。二三 然るに惡鬼に憑かれたる人、其會堂に在りしが、呼はりて、二四 云ひけるは、ナザレトのイエズスよ、我等汝と何の關係かあらん、我等を亡ぼさんとて來り給へるか、我汝の誰なるかを知れり、即ち神の聖なる者なり。と。二五 イエズス之を責めて、汝黙して其人より出でよ、と日ひしに、二六 汚鬼其人を拘擥けさせ、聲高く叫びつつ出去れり。二七 斯て人皆恐入りて、是は何事ぞ、何等の新しき教ぞ。彼は權威を

以て汚鬼等にすら命じ給へば、彼等之に従ふよ、と互に僉議するに至りければ、ニハイエズスの名聲、忽ガリレアの全地方に播がれり。ニ九 彼等驪て會堂を出で、ヤコボヨハネと共に、シモンとアンデレアとの家に至りしが、三〇 シモンの姑、熱を患ひて臥し居ければ、直に其事をイエズスに白したるに、三一 近づきて其手を取り、之を起し給ひしかば、熱立所に去りて彼婦彼等に給仕したり。三二 夕暮に至り日没りて後、人々病める者及惡魔に憑かれたる者を、悉くイエズスの許に齎し、三三 街の人挙りて門に集り居たりしが、三四 イエズス様々の病を患へる人を多く醫し、又惡魔を多く逐出して、言ふことを許し給はざりき、其は彼等イエズスを知ればなり。三五 イエズス未明に起出で、寂しき處に至りて祈り居給へるを、三六 シモン及共に居りし人々後を慕ひ行きて、三七 是に遇ひしかば、人皆汝を尋ぬ、と云ひしに、三八 イエズス彼等に曰ひけるは、我等比鄰の村落市街へ往かん、彼處にも亦宣教すべし、我は是が為に來りたればなり、と。三九 斯て處々の會堂及ガリレア一般に宣教し、且惡魔を逐払ひ居給へり。四〇 時に一個の癩病者イエズスの許に來り、跪きて願ひ云ひけるは、思召ならば我を潔くする事を得給ふ、と。四一 イエズス之を憫み給ひ、手を伸べ、是に觸れて曰ひけるは、我意なり、潔くなれ、と。四二 之を曰ふや、癩病直に彼を去りて彼潔くなれり。四三 イエズス之を戒め給ひ、四四 汝慎みて人に語ること勿れ、但往きて己を司祭に見せ、潔くなりたる為に、彼等への

證據として、モイゼの命ぜしものを獻げよ、と曰ひて、直に彼を去らしめ給へり。四五 然れども彼出でて其事を語り、言ひめ始めしかば、イエズス最早蹟然に町に入り難く成りて、外の寂しき處に居給ひしが、人々八方より其許に集り居たり。

第三項 人々イエズスに反抗し始む

第二章 數日の後、イエズス復カファルナウムに入り給ひしが、二 家に居給ふ事聞えしかば、人々夥しく集り來り、門口すら隙間もなき程なるに、イエズス彼等に教を宣へ居給へり。三 茲に人々、四人に昇かれたる一個の癩瘋者を齎ししが、四 群衆の爲に之をイエズスに差出だすこと能はざれば、居給ふ處の屋根を剥きて之を開き、癩瘋者の臥せる床を吊下せり。五 イエズス彼等の信仰を觀て、癩瘋者に向ひ、子よ、汝の罪赦さる、と曰ひしかば、六 或律法學士等其處に坐し居て、心に思ひけるは、七 彼何ぞ斯の如く云ふや、是冒瀆するなり、神獨の外、誰か罪を赦すことを得んや、と。ハイエズス彼等の斯く思へるを直に其心に知りて曰ひけるは、何為ぞ然る思ひを心に懷ける。九 癩瘋者に汝の罪赦さると云ふと、起きて床を取りて歩めと云ふと、孰か易き。一〇 然て汝等をして、人の子地に於て罪を赦すの權あることを知らしめん、とて癩瘋者に向ひ、二 我汝に命ず、起きよ、床を取りて己が家に往け、と曰ひしに、三 彼忽ち起きて床を取り、衆人見る目前を過行きしかば、皆感嘆に堪へず、神に光榮

を歸し、我等曾て斯の如き事を見ざりき、と云ふに至れり。一三 イエズス又湖辺に出で給ひしに、群衆挙りて來りければ、彼等を教へ居給ひしが、一四 通りがけに、アルフェオの子レヴィが收税署に坐せるを見て、我に従へ、と曰ひしかば、彼起ちて従へり。一五 斯て彼の家にて食に就き給ひければ、多くの税吏と罪人とは、イエズス及其弟子等と共に列席したり、蓋イエズスに従へる者既に多かりき。一六 律法學士フアリザイ人等、イエズスが税吏及罪人と共に食し給ふを見て、其弟子等に曰ひけるは、汝等の師は何故税吏罪人と共に飲食するぞ、と。一七 イエズス之を聞きて彼等に曰ひけるは、壯健なる者は醫者を要せず、病ある者こそ一之を要するなれ、即我が來りしは義人を召ぶるに非ずして、罪人を一召ぶるなり、と。一八 ヨハネの弟子等とフアリザイ人とは断食したりければ、來りてイエズスに云ひけるは、ヨハネとフアリザイ人との弟子は断食するに、汝の弟子は何故に断食せざるぞ、と。一九 イエズス彼等に曰ひけるは、新郎の己等と共に在る間、介添争でか断食することを得ん。新郎の共に在る間は彼等断食することを得ず。二〇 然れど新郎の彼等の中より取り去らるる日來らん、其日には断食せん。二一 新布の片を古き衣服に補ぐ人はあらず、然せば其新しき補は却て古き物を引裂きて、破綻は大いなるべし。二二 又新しき酒を古き皮囊に盛る人はあらず、若然せば酒は皮囊を裂きて流れ、皮囊も亦腐らん、新しき酒は新しき皮囊にこそ盛るべけれ、

と。二三 主又、安息日に當りて、麦畑を過り給へるに、弟子等歩みつつ穂を摘始めしかば、二四 フアリザイ人イエズスに向ひ、看よ、彼等が安息日に為すべからざる事を為せるは何ぞや、と云ひければ、二五 イエズス曰ひけるは、ダヴィドが急に迫りて、己も伴へる人々飢餓し時に為しし事を、汝等讀まざりしか、二六 即如何にして、大司祭アヒアタルの時、神に家に入りて、司祭の外は食すべからざる供の麴を食し、伴へる人々にも與へしかを。二七 又曰ひけるは、安息日は人の為に設けられて、人は安息日の為に造られず、二八 然れば人の子は亦安息日の主たるなり、と。

第三章 イエズス又會堂に入り給ひしに、隻手癩えたる人其處に居りければ、ニフアリザイ人イエズスを訟へんとて、彼が安息日に醫すや否やを窺ひ居りしが、三イエズス手癩えたる人に向ひて、眞中に立て、と曰ひ、四 又彼等に向ひて、安息日に善を為すは可きか、惡を為すは可きか、人を救ふは可きか、之を亡ぼすは可きか、と曰ひしに、彼等黙然たりき。五 イエズス彼等が心の頑固なるを憂ひ、怒を含みて視廻しつ彼人に、手を伸べよ、と曰ひければ、彼伸べて、其手痊えたり。六 然るにフアリザイ人は、出でて直に、如何にしてかイエズスを亡ぼさんと、ヘロデの徒と共に協議したり。七 イエズス、弟子等と共に湖の方に避け給ひしに、群衆夥しくガリラヤ及びユデアより、八 又エルザレム、イデユメア、ヨルダン「河」の彼方より「來りて」従ひ、且

チロとシドンとの地方よりも、イエズスの行ひ給へる事を聞き
て、人々夥しく其許に來りしかば、九イエズス群衆に擠迫ら
ざらん爲に、小舟を我用に備へ置かん事を弟子等に命じ給へり。
一〇蓋許多の人を醫し給ふに因り、病ある者は皆彼に触れんと
て跳付く程なりき。二汚鬼等もイエズスを見る時は、其前に
平伏し、叫びて、三汝は神の子なり、と云ひ居ければ、イエズ
ス己を躡すなど、厳しく戒め居給へり。

第四項使徒の選定より第一の派遣までの事實

二三斯てイエズス山に登り、好み給へる人々を召し給ひしに、
彼等來りしかば、二四十二人を立てて己と共に居らしめ、且宣教
に遣はさんとて、二五是に與ふるに、病を醫し、惡魔を逐払ふ
權能を以てし給へり。一六 即シモン、之をペトロと名け、一七ゼ
ベデオの子ヤコボと、ヤコボの兄弟ヨハネ、是等をボアゲルネ
ス 即 雷の子と名け給へり。一八またアンデレア、フィリッポ、
バルトロメオ、マテオ、トマ、アルフェオの子ヤコボ、タデオ、
カナアンのシモン、一九及イエズスを売りしイスカリオテのユ
ダなりき。二〇 彼等家に至りしに、群衆 再 集りしかば、麴を食
する事だに得ざりしが、二一イエズスの親族之を聞き、彼狂せり
と云ひて、之を捕へん爲に出來れり。二三又エルザレムより下り
し律法學士等も、彼ベエルゼブブに憑かれたり、其惡魔を逐払ふ
は惡魔の長に籍るなり、と云ひ居たり。二四イエズス彼等を呼集

めて、諭を以て曰ひけるは、サタン争でかサタンを逐払ふを得
んや。二四 國自ら分れ争ふ時は、其國立つ能はず、二五 家自ら分
れ争ふ時は、其家立つ能はず、二六 サタン若己に起ち逆らばは、
是自ら分れ争ふもの、立つ能はずして、却て亡ぶべし。二七 如何
なる人も、剛き者の家に入りて其家具を掠めんには、先剛き者を
縛らざれば能はず、一縛りて後一其家を掠むべし。二八 我誠に汝
等に告ぐ、人の子等が一切の罪、及冒流せし其冒流は赦されん、
二九 然れども聖靈を冒流せし者は永遠に赦を得ず、永遠の罪に服
すべし、と。三〇 斯く曰ひしは人々、彼汚鬼に憑かれたり、と云
ひ居ればなり。三一 時にイエズスの母と兄弟等と、來りて外に立
ち、人を遣はして彼を呼はしめしに、三二 群衆彼を環りて坐し居
たりけるが、人々彼に告げて、看よ、汝の母と兄弟等と外に在
りて汝を尋ぬ、と云ひしかば、三三 イエズス彼等に答へて曰ひけ
るは、誰か我が母、我が兄弟なるぞ、と。三四 又己が周圍に坐せ
る人々を視廻しつづ曰ひけるは、是ぞ我母、我兄弟なる、三五 其
は神の御旨を行ふ人は、是我兄弟、我姉妹、我母なればなり、と。
第四章 然て再び湖辺にて教へ始め給ひしが、群衆 夥しく其
許に集りしかば、イエズスは湖に泛べる船に乗りて座し給ひ、
群衆は、皆岸に沿ひて陸に居れり。二 斯て諭を以て多くの事を
教へ給ひしが、其教の中に曰ひけるは、三 汝等聴け。種播く者
播かんとて出でしが、四 播く時、或種は路傍に落ちしかば、空の
鳥來りて之を啄めり。五 或種は土少き礫地に落ちしに、土の深

からざるによりて直に萌出でたれども、六日出づるや灼けて、根なきが故に枯れたり。七、或種は茨の中に落ちしに、茨長ちて之を蔽塞きたれば、果を結ばざりき。八、或種は沃壤に落ちしかば、穂出でて實り立ち、一は三十倍、一は六十倍、一は百倍を生じたり。九又曰ひけるは、聞く耳を有てる人は聞け、と。一〇イエズス獨居給ふ時、共に在りし十二人、此諭を問ひしかば、二彼等に曰ひけるは、汝等は神の國の奧義を知る事を賜はりたれど、外の人は何事も諭を以てせらる、二彼等は見て見ゆれども認らず、聞きて聞ゆれども曉らず、是立還りて其罪を赦さるる事ながらん為なり。三又彼等に曰ひけるは、汝等此諭を知らざるか、然らば如何にしてか、諸の諭を曉らん。四種捲く者は言を捲くなり、二五言捲かるる時路傍に落ちたるものは、人之を聞きたるにサタン、忽來りて其心に捲かれたる言を奪ぶものなり。一六磯地に捲かれたるものは、同じく言を聞き、直に喜びて之を受くれども、一七己に根なく、暫時のみにして、聽て言の為に、困難と迫害と起れば、忽躓くものなり。一八又茨の中に撒かれたるものあり、是等は言を聞くと雖、一九此世の心勞、富の惑、其他の諸欲來りて、言を蔽塞ぎ、遂に實らざるに至る。二〇沃壤に撒かれたるものは、言を聞きて之を受け、或いは三十倍或は六十倍、或は百倍の果を結ぶものなり。二一又彼等に曰ひけるは、燈を持來るは、柵の下、或は寢台の下に置かん為なるか、燭台の上に載せん為に非ずや、二三、即何事も隠されて顯れざるはな

く、密にせられて遂に公に出でざるはなし。二三、聞く耳を有てる人は聞け。二四、又彼等に曰ひけるは、汝等聞く所を慎め。汝等の量りたる量にて自らも量られ、而も更に加へられん、二五、其は有てる人は尚與へられ、有たざる人は其有てる所をも奪はるべければなり。二六、又曰ひけるは、神の國は、恰人が地に種を蒔くが如し。二七、夜晝寢起して知らざる間に、其種萌出でて生長す、二八、即地は自然に果を生じ、先苗、次に穂、次に穂に充てる麦を生じ、二九、既に實りて收穫の時至れば、直に鎌を入るなり。三〇、又曰ひけるは、我等神の國を何に擬へ、如何なる譬を以て喻へんか。三一、是一粒の芥種の如し。地に播かるる時は地上の有ゆる種よりも小けれども、三二、播かれたる後は育ちて、長ちて萬の野菜より大きく、大いなる枝を生じて、空の鳥其蔭に栖むを得るに至る、と。三三、イエズスは、人々の聞き得るに應じて、斯る多くの諭を以て教を語り給ひ、三四、諭なくして人に語り給ふ事あらざりしが、弟子等には何事をも、別に解釈し居給へり。三五、其日、暮に及びて、イエズス弟子等に、我等彼方の岸に渡らん、と曰ひしかば、三六、彼等は群衆を去らしめ、イエズスを船に居給へる儘に乗せ往き、他の船等も是に伴ひたりき。三七、時に大風起りて、浪は船に打入り、船中に満つるに至りしが、三八、イエズスは艫の方に枕して寝ね給へるを、弟子等呼起して云ひけるは、師よ、我等の亡ぶるを顧み給はざるか、と。三九、イエズス起きて風を戒め、又海に向ひて、黙せよ、静まれ、と曰ひしかば、風息み

て大風となれり。四〇又彼等に曰ひけるは、汝等何故に怖るぞ、未信仰を有たざるか、と。四 彼等怖るる事甚しく、是は何人ぞや、風も湖もこれに従ふよ、と語合ひ居たり。

第五章 然て湖を渡りてゲラサ人の地に至りしが、ニイエズス船より出で給ふや、汚鬼に憑かれたる人、墓より出でて来り迎ふ。三此人墓を住處とし、鎖を以てすら、誰も之を繋ぎ得ず、四即數次、桎と鎖とを以て繋かれたりしも、鎖を断り桎を推きて、誰も之を制し得る者なかりき。五斯て絶えず叫び、且自ら石もて傷けつつ、夜晝墓と山の中に居りしが、六遙にイエズスを見て、走り寄りて禮拜し、七聲高く呼はり云ひけるは、最高き神の御子イエズスよ、我と汝と何の關係かあらん。我神によりて希ふ、我を苦しむること勿れ、と。八其はイエズスは是に向ひて、汚鬼、斯人より出よ、と曰へばなり。九イエズス、汝の名は何ぞ、と問ひ給ひしに、彼、我名は軍団なり、我等は數多ければなり、と云ひて、一〇己を此地より逐払ひ給はざらん事を、切に願ひ居たり。二然て此處に豚の大きいなる群、山辺に在りて草を食み居りしが、三「惡」鬼等 希ひて、我等を遣りて豚の中に入ることを得させ給へ、と云ひければ、ニイエズス直に之を允し給ひしに、汚鬼等出でて、豚の中に入り、凡二千頭計の群、勢、凄じく湖に飛入りて、湖の中に溺死せり。四此豚を牧ひ居りし者等、遁げて、町に田舎に吹聴したれば、人々事の顛末を見んとて出でしが、一五イエズスの許に來りて、彼惡魔に惱まされし人

の、既に衣服を着、心確にして坐せるを見て、怖れたり。一六又見たりし者、彼惡魔に憑かれたりし人に成されたる次第と、豚の事とを告げしかば、一七 彼等イエズスに其境を去り給はん事を願出でたり。一八イエズス、船に乗り給ふ時、彼惡魔に惱まされし人、伴はん事を願出でたれど、一九イエズスを容れずして曰ひけるは、汝の家汝の親戚に至りて、主が汝の身に如何ばかり大いなる事をなし、一如何に一汝を憐み給ひしかを彼等に告げよ、と。二〇彼即去りて、イエズスの己に為し給ひし事の如何ばかり大いなるかを、デカボリに言弘め始めしかば、人皆感嘆したり。二イエズス復船にて湖を渡り給ひしかば、群衆夥しく其許に集りしが、湖辺に居給ふ折しも、三 會堂の司の一人なる、ヤイロと云へる者出來り、イエズスを見るや、足下に平伏して、三 我女死に垂とす、助かりて活くる様、來りて是に按手し給へ、と切に希ひければ、四 イエズス彼と共に往き給ふに、群衆夥しく從ひて擠迫り居たり。五茲に十二年血漏を患へる婦ありて、二六 曾て數多の醫師に係りて様々に苦しめられ、有てる物を悉く費したれど、何の効もなく、却て益惡しかりしに、ニイエズスの事を聞きしかば、雑沓の中を後より來りて、其衣服に触れたり。二八是は其衣服にだに触れなば癒ゆべし、と謂ひ居たればなり。二九斯て出血忽ちに歇みて、婦は病の癒えたるを身に感じたり。三〇イエズス直に己より靈能の出でしを覺り給ひ、群衆を顧みて、誰か我衣服に触れしぞ、と曰ふや、と。

三 弟子等云ひけるは、くんしゆうなんぢ 群衆の汝に擠迫るを見ながら猶誰か我に觸りしぞ、と曰ふや、と。三イエズス之を為しし人を見んとて視廻し給へば、三 婦は我が身に成りたる事を知りて、恐れ慄きつつ來り、御前に平伏して、具に實を告げたり。三四 イエズスはに曰ひけるは、女よ、汝の信仰、汝を救へり、安んじて往け、汝の病癒えてあれかし、と。三五 尚語り給ふ中に、會堂の司の家より人來りて云ひけるは、汝の女死せり。何ぞ尚師を煩はすや、と。三六 イエズス其告ぐる所を聞きて、會堂の司に曰ひけるは、恐ること勿れ、唯信ぜよ、と。三七 而してペトロとヤコボとヤコボの兄弟ヨハネとの外、誰にも隨行を許さずして、三八 會堂の司の家に至り給ひしが、其驕甚しく、人々泣き、且太く嘆きつつ居るを見て、三九 イエズス内に入り給ひ、汝等何ぞ驕ぎ且泣くや、女は死にたるに非ず、寢たるなり、と曰へば、四〇 人々之を晒ひ居たり。然れど人を皆外に出し、女の父母と己が從者とを連れて、女の臥せる處に入り、四一 女の手を取りて、タリタクミ、と曰へり、訳して、女よ、我汝に命す、起きよ、の義なり。四二 女直に起きて歩めり、年は十二歳なりき。人々愕然として甚く驚きしが、四三 イエズス此事を誰にも知らずべからずと厳しく戒め、食物を女に與へん事を命じ給へり。

第六章 イエズス、此處を去りて我故郷に至り給ひ、弟子等是從ひたりしが、二 安息日に當り會堂にて教を説始め給ひしかば、聞く人多く其教に驚きて云ひけるは、彼は是等の事を何處

より得たるぞ、其授けられたる智慧と、其手に行はるる斯ばかりの奇蹟とは、如何なるものぞ。三 彼はマリヤの子にして、ヤコボ、ヨゼフ、ユダ及びシモンの兄弟たる職工にあらずや、其姉妹等も我等と共に此處に在るに非ずや、と。斯て遂に彼に蹟き居たり。四 イエズス彼等に曰ひけるは、預言者の敬はれざるは唯其故郷、其家、其親戚の中に於てのみ、と。五 然れば此處にては、少數の病者を按手して醫し給ひし外、何等の奇蹟をも為し得給はず、六 彼等の不信仰に驚き、其辺の邑々を巡りて教へ居給へり。七 イエズス十二人を呼びて、之を二人づつ遣はずに臨み、汚鬼等に對する一の權能を授け、八 且途中杖の外に何物をも携へざる事、旅囊、麪又は帯に錢を持つまじき事、九 普通の履物を穿くも、二枚の下着を着まじき事を命じ、一〇 然て彼等に曰ひけるは、何處にても、或家に入らば、其地を去るまで其處に留れ。一一 又総て汝等を承けず、汝等に聴かざる者あらば、其處を立去りて、彼等への證據として足の塵を払え、と。一二 斯て弟子等出でて改心すべきことを人々に説教し、一三 許多の惡魔を逐払ひ、注油して多くの病者を醫し居たり。

第五項 イエズスガリラアを巡り給ふ

一四 斯てイエズスの名顕れしかば、ヘロデア王聞きて、洗者ヨハネは死者の中より蘇りたり、故に奇蹟彼に行はるるなり、と云へるに、一五 或人々は、是エリアなりと云ひ、又或人々は、預言者な

り、預言者の一人の如し、と云へば、一六へロデ之を聞きて我が
鹹りし彼ヨハネは、死者の中より蘇りたり、と云へり。一七蓋へ
ロデ曾て其兄弟フィリップの妻へロチアデを娶りたれば、彼が
為に人を遣はしてヨハネを捕へ、監獄に繋ぎたりき。一八其はヨ
ハネへロデに向ひ、汝兄弟の妻を納るるは可からず、と云ひ居
たればなり。一九然ればへロチアデ彼を恨みて殺さんと欲すれ
ども、能はざりき、二〇是へロデはヨハネの義人たり聖人たるを
知りて、之を畏れ且護り、是に聴きて多くの事を行ひ、好みて彼
に聴き居たるを以てなり。二一斯て便宜好き日來り、へロデ、
大官、千夫長及ガリラアの貴族等を招待して誕生日の饗宴を
開きしが、三彼へロチアデの女來りて踊を為し、へロデ及
列席の人々の意に適ひしかば、王女に云ひけるは、欲しきもの
を我に求めよ、我必之を與へん、と。二三又誓ひて曰く、何事
を求むるも、例へば我國の半にても、我之を汝に與へん、と。二
四其時女出でて、我何を求むべきかと母に云ひしに、彼、洗者
ヨハネの頭を、と云ひければ、二五女直に王の許に急ぎ行き、
洗者ヨハネの頭を盆に載せて、速に我に賜はん事を欲す、と云
へり。二六王憂ひしかど、誓に對し且は列席の人々に對して女に
否む事を欲せず、二七刑吏を遣はし、ヨハネの頭を盆に載せて持
來る事を命ぜり。刑吏監獄にヨハネを鹹り、二八其頭を盆に載
せ齎して、女に與へしかば、女は之を母に與へたり。二九ヨハネ
の弟子等聞きて來り、其屍を取りて墓に葬れり。三〇然て使徒

等イエズスの許に集り、總ての爲しし事、教へし事を告げしか
ば、三イエズス彼等に向ひ、別に寂しき處に來りて暫し休め、と
曰へり。其は往來する人多くして、食する暇だにあらざればな
り。三三斯て船に乗りて、別に寂しき處に往けり。三三彼等の往く
を見て、多くの人之を知り、凡ての町より徒歩にて彼等に先ち
て、彼處に馳集りしが、三四イエズス出でて群衆の夥しきを見給
ひ、其牧者なき羊の如くなるを憫み、多くの事を教へ始め給へ
り。三五日既に暮れかかりしかば、弟子等近づきて云ひけるは、
處は寂しく時は既に遅し。三六人々を遣し、四辺の田家及邑に
往きて面々に食物を買ふことを得しめ給へ、と。三七イエズス答
へて、汝等是に食物を與へよ、と曰ひしかば、彼等云ひけるは、
我等往きて二百デナリオにて麪を沽ひ、彼等に食せしめんか、
と。三八イエズス、汝等幾個の麪を可有てる、往きて見よ、と曰
ひしに、彼等尋ね知りて、五個と二尾の魚とあり、と云へり。三
九斯て命じて、人々を皆青草の上に組々に坐せしめ給ひ、四〇
人々百人五十人づつ坐したるに、四一イエズス五個の麪と二尾の
魚とを取り、天を仰ぎて祝し、麪を擘きて弟子等に與へ、之を
人々の前に置かしめ、また二尾の魚を一同に分ち給ひしかば、四二
皆食して飽足れり。四三残れる屑を拾ひしに、魚を併せて十二
の筐に満ちしが、四四食せし男子は五千人なりき。四五イエズス
直に弟子等を強て船に乘らしめ、己が人民を去らしむる間に湖
を渡り、先ちてベツサイダへ赴かしめ給ひ、四六人を去らしめて

後、祈らんとて山に往き給へり。四七夜更けて船は湖の中央に在り、イエズスは獨陸に居給ひしが、四八イエズス弟子等の逆風の為に漕ぎ悩めるを見給ひ、朝の三時頃湖の上を歩みて彼等に至り、行過ぎんとし給ひしに、四九弟子等其湖の上を歩み給ふを見るや、怪物ならんと思ひて叫出せり。五〇其は皆彼を見て心擾ぎたればなり。イエズス直に言を出して、頼もしかれ、我なるぞ、懼ること勿れ、と曰ひ、五一船に乗りて彼等に至り給ひしに、風止みたれば、彼等愈益心中に驚きたり。五二其は彼等の心頑固にして、彼の麪の事を曉らざりければなり。五三航りて、ゲネザレトの地に至り、岸に船を着けしが、五四船より出づるや、人々忽イエズスを認めて、五五其全地方を馳廻り、イエズスの居給ふと聞く處に、病る者を床の儘に昇きて、何處までも廻り始めたり。五六斯く至る處、或は邑、或は街、或は田家に、人々病者を衢に置き、彼の衣服の総にだも触れん事を願ひ居りしが、触るる人は悉く醫されつつありき。

第七章　ファリザイ人及數人の律法學士エルザレムより來りて、イエズスの許に集まりしが、二弟子の中なる數人の、常の手即ち洗はざる手にて麪を食するを見て、之を咎めたり。三是ファリザイ人及凡てのユデア人は、古人の傳を守りて、屢手を洗はざれば食せず、四又市より來る時は、身を洗はざれば食せず、其外杯、土器、銅器、牀の洗清め等、守るべき事多く傳へられたればなり。五ファリザイ人、律法學士等イエズスに問ひけ

るは、汝の弟子等は何ぞ古人の傳に従ひて歩まず、常の手にて麪を食するや。六答へて曰ひけるは、善哉イザヤが僞善なる汝等に就きて預言したる事、録して、此民は唇にて我を尊べども、其心は我に遠ざかれり。七人の訓戒を教へて、空しく我を尊ぶなり」とあるに違はず。八即汝等は神の掟を棄てて人の傳を守り、土器、杯等の洗清め、又然る類の事を多く行ふなり、と。九又彼等に曰ひけるは、汝等は己が傳を守らんとて、能くも神の掟を廢せるよ。一〇即モイゼ曰く、「汝の父母を敬へ」と、又曰く「父若くは母を誑う人は死すべし」と。二然るを汝等は云ふ、人もし父若くは母に向ひて、総て我よりするコルバン、即獻物は、汝に益とならんと云はば足れり、と。三而して其外は何事をも父若くは母に為すを容さず。三斯く己の傳へし傳によりて神の言を廢し、又然る類の事を多く行ふなり、と。四イエズス再群衆を呼集めて、曰ひけるは、皆我に聞きて曉れ。一五外より人に入る物は、何物も人を汚す能はず、人より出づる物こそ人を汚すなれ。一六聞く耳を有てる人は聞け、と。一七然てイエズス、群衆を離れて家に入り給ひしに、弟子等此諭の事を問ひければ、一八彼等に曰ひけるは、汝等も然るまでに無智なるか。総て外より人に入る物は、之を汚す能はざることを曉らざるか。一九是其心に入るに非ずして、腹に下り、総て食物を淨めて廁に出づればなり、と。二〇又曰ひけるは、人より出づる物こそ人を汚すなれ。二一即人の心の内より出づるは、惡念姦淫私通殺人

二三 偷盜貪婪狡狴詐偽狼麤惡視冒洗傲慢愚痴にして、二三 是等一切の悪事は、内より出でて人を汚すなり、と。二四 イエズス此處を去りて、チロとシドンとの地方に行き、家に入りて、誰をも見ざらん事を欲し給ひたれど、得隠れ給はざりき。二五 即ち汚鬼に憑かれたる女を持てる一人の婦、イエズスの事を聞くと等しく入來りて、足下に平伏せり。二六 此婦はシロフエニシアに生まれたる異邦人にして、我女より惡魔を逐払ひ給はん事を願ひ出でけるに、ニモイエズス曰ひけるは、先兒等をして飽足らしめよ。兒等の麪を取りて犬に投與ふるは善き事に非ず、と。二八 婦答へて、主よ、然り、然れど狗兒も、食卓の下に、兒等の遺片を食ふなり、と云ひしに、ニ九 イエズス曰ひけるは、此言によりて往け、惡魔汝の女より出でたり、と。三〇 婦家に歸りて見れば、女は牀に横はりて、惡魔は既に立去りたりき。三一 イエズス又チロの地方を出で、シドンを經てデカポリ地方の中央を過り、ガリレアの湖に至り給ひしに、三人々唾にして疊なる者をイエズスに連れ來り、是に按手し給はん事を願ひければ、三二 イエズス之を群衆の中より呼取りて、指を其耳に入れ、唾して其舌に触れ、三四 天を仰ぎて歎じ、エフフエタ、と曰へり、即開けよの義なり。三五 忽ににして其耳開け、舌の縛解けて言ふこと正しかりき。三六 イエズス之を人に語る事を彼等に戒め給ひしかど、戒め給ふほど、人は益言弘め、三七 益感嘆して、善くこそ何事をも為し給ひつれ、疊を聞えしめ、唾を言はしめ給へり、

と云ひ居たり。

第八章 其時復群衆夥しくして、食すべきものあらざりしかば、イエズス弟子等を呼集めて曰ひけるは、二 我此群衆を憫む。夫既に三日を我と共に過して今や食すべき物なし。三 彼等を空腹にして家に歸らしめば、中には遠方より來れる人々あり、途にて倒るべし、と。四 弟子等答へけるは、此荒野にて、誰か何處より麪を得て彼等を飽かしめ得べき、と。五 イエズス、汝等幾個の麪をか有てる、と問ひ給ふに、七個と云ひしかば、六 イエズス命じて群衆を地に坐らせ、七個の麪を取り、謝して之を擘き、人々の前に供へしめんとて弟子等に與へ給ひしかば、彼等之を群衆の前に供へたり。七 又少しの小魚ありけるを、イエズス之をも祝し給ひ、命じて人々の前に供へしめ給ひしかば、八 人々食して飽足り、殘の屑七筐を拾へり。九 食せし者は凡 四千人なりしが、イエズスさて彼等を去らしめ給へり。一〇 斯て直に弟子等と共に船に乗りて、ダルマヌタ地方に至り給ひしに、一 ファリザイ人等出でて論じかかり、イエズスを試みて天よりの徴を求めければ、二 イエズス心の中に歎じて曰ひけるは、現代の人は何ぞ徴を求むるや、我誠に汝等に告ぐ、現代の人豈徴を與へられんや、と。三 艦で彼等を去らしめ、復船に乗りて湖の彼方に至り給へり。一四 時に弟子等麪を携ふる事を忘れて、船中唯一個の麪あるのみなりしが、一五 イエズス彼等に命じて、汝等慎みて、ファリザイ人の麪酵と、へ口デの麪酵とに用心せよ、と曰ひ

しかば、一六 彼等、是我等が麴を有たざる故ならん、とて案じ合ひけるを、一七 イエズス知りて曰ひけるは、汝等何ぞ麴を有たざる事を案するや、未知らず曉らざるか、汝等の心猶盲なるか、一八 目ありて見えず、耳ありて聞こえざるか、又記憶せざるか。一九 即 我五個の麴を五千人に擘與へし時、汝等屑の満ちたる筐幾許を取収めしぞ、と。 彼等十二と云ひしに、二〇 又一日ひけるは、一七個の麴を四千人に擘與へし時、幾箇の屑を取収めしぞと、彼等、七と云ひしかば、二一 イエズス何ぞ未だ曉らざる、と曰へり。 二二 一行ベツサイダに至りしに、人々一個の醫者をイエズスに連れて、是に触れ給はん事を願ひければ、二三 イエズス、醫者の手を執りて之を肩外に導き、其目に唾して是に按手し、見ゆる物ありや、と問ひ給ひしに、二四 彼睜りて、我人々の歩むを見るに、樹の如くなり、と云へり。 二五 臆て復其目に按手し給ひしに、目漸く開け、遂に回復して、凡ての物明に見ゆるに至れり。 二六 イエズス彼を其家に歸らしめて曰ひけるは、己が家に往け、邑に入る事なく、誰にも告ぐる事勿れ、と。

第六項 イエズス弟子等に己が受難を預期せしめ給ふ

二七 イエズス弟子等と共にフィリッポのカイザリアの邑々に行き給ひしが、途中弟子等に問ひて、人々我を誰とか云へる、と曰ひしに、二八 彼等答へて、一人人々は「洗者ヨハネ、或人々はエリヤ、或人々は預言者の一人の如しと云ふ、と云ひしかば、二九

イエズス彼等に曰ひけるは、然て汝等は我を誰なりと云ふか、と。 彼ト口答へて、汝はキリストなりと云ひけるを、三〇 イエズス我事を誰にも告ぐる事勿れ、と厳しく戒め給へり。 三一 又人の子が多く苦を受け、長老、司祭長、律法學士等に排斥せられ、終に殺されて、三日の後復活すべき事を彼等に教へ始め給ひしが、三二 其事を公に語り給ひければ、ペトロ彼を抜きて諫出でけるを、三三 イエズス顧みて弟子等を見廻し給ひ、ペトロを譴責して曰ひけるは、サタンよ、退け、汝の味へるは神の事に非ずして人の事なればなり、と。 三四 イエズス群衆と弟子等とを呼集めて、是に曰ひけるは、人若我に従はんと欲せば、己を棄て、己が十字架を取りて、我に従ふべし。 三五 其は己が生命を救はんと欲する人は之を失ひ、我及福音の為に生命を失ふ人は、之を救ふべければなり。 三六 人全世界を贏くとも、若其生命を損せば、何の益かあらん。 三七 又人何を以てか其生命に易へんや。 三八 蓋 奸惡なる現代に於て、我及我言を愧ぢたる人をは、人の子も己が父の光榮を以て、聖なる天使等を従へて來らん時之を愧づべし、と。

第九章 一 又彼等に曰ひけるは、我誠に汝等に告ぐ、神の國が權威を以て來るを見るまで、死を味はざるべき人々、此處に立てる者の中に在り、と。 二 六日の後イエズス、ペトロヤコボヨハネのみを別に從へて、高き山に導き給ひしに、彼等の前にて御容變り、三 衣服は輝きて純白なる事雪の如く、地上の布晒人の為し

得ざる程なりき。四時にエリアモイゼと共に彼等に現れて、イエズスと語り居りしが、五ペトロ答へて、イエズスに云ひけるは、ラビ、善哉我等が此處に居る事。我等三個の虜を作り、一は汝の為、一はモイゼの為、一はエリアの為にせん、と。六蓋彼は其云ふ所を知らざりき、其は皆甚く懼れ居たればなり。七斯て一叢の雲彼等を立覆ひ、聲雲の中より來りて曰はく、是ぞ我最愛の子なる、是に聴け、と。八彼等は直に見廻しけるに、イエズスと己等との外、復誰をも見ざりき。九イエズス彼等が山を下る時、人の子死者の中より復活するまでは、其見しことを人に語るな、と戒め給ひしかば、一〇彼等之を守りしが、死者の中より復活する迄は何事ぞ、と論じ合ひたり。二斯てイエズスに問ひて、然らばエリア先に來るべしとフアリザイ人律法學士等の云へるは何ぞや、と云ひければ、三答へて曰ひけるは、エリア先に來りて萬事を回復すべし、又人の子に就きては、多くの苦難を受け且、蔑にせらるべし、と録されたる如く、三我汝等に告ぐ、エリアも既に來れり、且人々、縦に彼を遇ひし事、彼に就きて録されたるに違はず、と。四イエズス弟子等の許に來り見給ひしに、夥しき群衆彼等を圍み、律法學士等彼等と論じ居りしが、一五人民は直にイエズスを見て、皆驚き恐れ、馳寄りて敬禮せり。一六イエズス律法學士等に向ひ、何を論じ合へるぞ、と曰ひしに、一七群衆の中より一人答へて云ひけるは、師よ、我嗚なる惡鬼に憑かれたる我子を汝に贖したるが、一八惡鬼に憑か

るれば、何處にもあれ、投げ倒されて泡を噴き、齒を切り、五體強る。之を追い出さん事を汝の弟子等に請ひたれど能はざりき、と。一九イエズス彼等に答へて曰ひけるは、嗚呼信仰なき時代なる哉、我何時まで汝等と共に居らんや、何時まで汝等を忍ばんや。其を我に携へ來れ、と。二〇即携へ來りしが、彼イエズスを見るや、直に惡鬼の為に痙攣を起し、地に倒されて泡を噴きつつ臥転びたり。二一イエズス其父に向ひ、彼に此事の起れるは、何時頃よりぞ、と問ひ給ひしに、二三父云ひけるは、幼少の時よりなり、而して惡鬼之を殺さんと、屢火に水に投げ入れたり。汝若為べき様もあらば、我等を憫みて助け給へ、と。二四イエズスは是に曰ひけるは、汝若信することを得ば、信する人には何事も能はざるなし、と。二五子の父、忽涙と共に呼はりて云ひけるは、主よ、我は信ず、我信仰を扶け給へ、と。二六イエズス群衆の馳集るを見て汚鬼を責め、唾にして聾なる惡鬼よ、我汝に命す、此人より立去りて、再入ること勿れ、と曰ひしに、二七惡鬼叫びつつ彼を痙攣せしめて出去れり。然て彼は死人の如くに成りしかば、死せりと云ふ人多かりしが、二八イエズス其手を執りて起し給ひければ、彼立たれり。二九イエズス家に入り給ひしに、弟子等竊に、我等が之を逐出すこと能はざりしは、何故ぞ、と問ひしかば、三〇イエズス彼等に曰ひけるは、斯る類は、祈祷と断食とによらず、如何にしても逐出すこと能はざるなり、と。三一斯て此處を去りて一行ガリラアを過りしが、イエ

ズ誰にも知られざらん事を欲し給ひ、三 弟子等に教へて、人の子は人の手に売れ、是に殺され、殺されて三日目に復活すべし、と曰ひしかども、三 彼等其言を曉らず、又問ふ事をも憚り居たりき。三 彼等カファルナウムに至りて家に居りしに、イエズ問ひて、汝等途々何を論じたりしぞ、と曰へば、三 四 彼等黙然たりき、是は已等の中に最大なる者は誰ぞ、と道すから相争ひたればなり。三 五 イエズ坐して十二人を呼び、是に曰ひけるは、人若第一の者たらんと欲せば一同の後と成り、一同の召使と成るべし、と。三 六 然て一人の幼兒を取りて彼等の中に置き、之を抱きて彼等に曰ひけるは、三 七 誰にもあれ、我名のために、斯る幼兒の一人を承くる人は、我を承くる者なり、又誰にもあれ、我を承くる人は、我を承くるには非ずして、我を遣はし給ひし者を承くるなり。三 八 ヨハネ答へて云ひけるは、師よ、我等に従はざる一人が、汝の名を以て悪魔を逐払ふを見たれば、我等之を禁じたりき。三 九 イエズ曰ひけるは、禁ずること勿れ、其は我名を以て奇蹟を行ひながら、直に我を誘ひ得る者あらざればなり。四 〇 即 汝等に反せざる人は、汝等の為にする者なり。四 一 汝等がキリストに属する者なればとて、我名のために一杯の水を飲ます人あらば、我誠に汝等に告ぐ、彼は其報を失はじ。四 二 又我を信する此小き者の一人を躓かする人は、驢馬の挽く磨を頸に懸けられて海に投入せらるる事、寧彼に取りて優れり。四 三 若汝の手汝を躓かさば之を切れ、不具にて生命に

入るは、兩手ありて地獄の滅えざる火に往くより、汝に取りて優れり、四 四 彼處には其蛆は死なず、火は滅えざるなり。四 五 若汝の足汝を躓かさば之を切れ、片足にて永遠の生命に入るは、兩足ありて滅えざる火の地獄に投入せらるるより、汝に取りて優れり。四 六 彼處には其蛆は死なず、火は滅えざるなり。四 七 若汝の目汝を躓かさば、之を袂去れ、片目にて神の國に入るは、兩目ありて火の地獄に投入せらるるより、汝に取りて優れり、四 八 彼處には其蛆は死なず、火は滅えざるなり。四 九 各火を以て醃けられ、犠牲は各塩を以て醃けられん。五 〇 塩は善き物なり、然れど塩若其味を失はば、何を以てか是に醃せんや。汝等の心に塩あれ、汝等の間に平和あれ、「と曰へり」。

第七項 イエズペレア地方に留り遂にエルサレムに赴き給ふ

第一〇章 イエズ此處を立出でて、ヨルダン「河」の彼方なるユデアの境に至り給ひしに、群衆復其許に集りければ、例の如く復彼等を教へ居給へり。二 時にファリサイ人等近づきて之を試み、人其妻を出すは可か、と問ひしに、三 イエズ答へて、モイゼは汝等に何を命ぜしぞ、と曰ひしかば、四 彼等云ふ、モイゼは離縁状を書きて妻を出す事を許せり。五 イエズ彼等に答へて曰ひけるは、彼は汝等の心の頑固なるによりてこそ、彼掟を汝等に書與へつれ。六 然れど開闢の初に、神は人を男女に造り

給へり、七此故に人は父母を離れて其妻に合し、八兩人一體となるべし。然れば既に二人に非ずして一體なり。九故に神の合せ給ひし所、人之を分つべからず、と。一〇弟子等家に於て、復同じ事に就きて問ひしかば、一彼等に曰ひけるは、誰にても妻を出して他に娶るは、是彼女に對して姦淫を行ふなり。二又妻其夫を棄てて他に嫁ぐは、是姦淫を行ふなり、と。三時にイエズスの是に触れ給はん為に、人々幼兒等を差出したるに、弟子等其差出す人を叱りければ、一四イエズス之を見て憤り給ひ、彼等に曰ひけるは、幼兒等の我に來るを容せ、之を禁ずること勿れ、神の國は斯の如き人の為なればなり。一五我誠に汝等に告ぐ、總て幼兒の如くに神の國を承けざる人は、竟に是に入らじ、と。一六斯て幼兒等を抱き、按手して之を祝し居給へり。一七イエズス途に出で給ひしに、一人馳來り、其前に跪きて、善き師よ、永遠の生命を得んには、我何を為すべきか、と問ひければ、一八イエズスはに曰ひけるは、何ぞ我を善きと云ふや、神獨の外に善きものなし、一九汝は錠を知れり、姦淫する勿れ、殺す勿れ、盜む勿れ、偽證する勿れ、害する勿れ、汝の父母を敬へ、と是なり、と。二〇彼答へて、師よ、我幼年より悉く之を守れり、と云ひしかば、二イエズスはに目を注ぎ、龍みて曰ひけるは、汝尚一を欲けり、往きて有てる物を悉く売り之を貧者に施せ、然らば天に於て寶を得ん、而して來りて我に従へ、と。二三此言に悲み憂ひつつ去れり。其は多くの財産を有てる者なればな

り。二三イエズス見廻しつつ弟子等に、難い哉金を有てる人の神の國に入る事、と曰ひければ、二四弟子等此言に驚きしかば、イエズス又答へて曰ひけるは、小子よ、難い哉金を持てる人の神の國に入る事。二五富者が神の國に入るよりも、駱駝が針の孔を通るは易し、と。二六彼等愈怪しみて語合ひけるは、然らば誰か救はるることを得ん、と。二七イエズス彼等に目を注ぎつつ曰ひけるは、其は人に於て能はざる所なれども、神に於ては然らず、神に於ては何事も能はざる所なし、と。二八ペトロイエズスに向ひて、然て我等は一切を棄てて汝に従ひたり、と云出でたるに、二九イエズス答へて曰ひけるは、我誠に汝等に告ぐ、總て我為めた福音の為に、或は家、或は兄弟、或は姉妹、或は父、或は母、或は子等、或は田畑を離るる人は、三〇誰にてもあれ、百倍程を受けざるはなし、即今此世にては、家、兄弟、姉妹、母、子等、田畑を迫害と共に一受け、一後の世にては、永遠の生命を受けざるはなし。三一但多く先なる人は後に成り、後なる人は先になるべし、と。三二エルザレムに上る途中、イエズス弟子等に先ち給ふを、彼等驚き且怖れつつ従ひ居りしに、イエズス再三十二人を近づけて、己に起るべき事を語出で給ひけるは、三三看よ、我等エルザレムに上る。斯て人の子は司祭長、律法學士、長老等に売られ、彼等は之を死罪に處し、異邦人に付し、三四且之を弄り、之に唾し、之を鞭ちて殺さん、而して三日目に復活すべし、と。三五時に、ゼベデオの子ヤコボとヨハネとイエ

ズに近づきて云ひけるは、師よ、望むらくは、我等の願ふ所を、何事にもあれ我等に爲し給はん事を、と。三六 イエズス、我が汝等に何を為さん事を願ふぞ、と曰ひければ、三七 彼等、汝の光榮の中に一人は其右、一人は其左に坐することを我等に得させ給へ、と云ひしに、三八 イエズス曰ひけるは、汝等は願ふ所を知らず、汝等我が飲む杯を飲み、我が洗せらるる洗禮にて洗せられ得るか、と。三九 彼等、我等は得、と云ひしに、イエズス曰ひけるは、汝等實に我が飲む杯を飲まん、又我が洗せらるる洗禮にて洗せられん、四〇 然れど我が右或は左に坐するは、我が汝等に得さすべき事に非ず、待設けられたる人々に得さすべきなり、と。四一 十人の者之を聞きて、大いにヤコボとヨハネとを憤り始めければ、四二 イエズス彼等呼びて曰ひけるは、異邦人を司るに見ゆる人が之に主となり、又其君たる人が権を其上に振ふは、汝等の知れる所なり。四三 然れど汝等の中に於ては然らず、却て誰にもあれ、大いならんと欲する者は汝等の召使となり、四四 誰にもあれ、汝等の中に第一の者たらんと欲する者は一同の僕となるべし。四五 即ち人の子の來れるも、仕へらるる爲に非ず、却て仕へん爲、且衆人の贖として生命を與へん爲なり、と。四六 斯て皆エリコに至りしが、イエズス弟子等と夥しき群衆を伴ひてエリコを出で給ふ時、チメオの子なる賢者バルチメオ、路傍に坐して施を乞ひ居りしに、四七 是ナザレトのイエズスなりと聞くや、叫び出でてダヴィドの子イエズスよ、我を憫み給へ、と云ひ

ければ、四八 多くの人を叱りて黙せしめんとすれども、彼益激しく、ダヴィドの子よ、我を憫み給へ、と呼はり居たり。四九 イエズス立止りて、彼を呼ぶ事を命じ給ひしかば、人々賢者を呼びて、心安かれ、起て、汝を召し給ふぞ、と云ふや、五〇 賢者上着を抛棄て、躍揚りて御許に至りしが、五一 イエズス答へて、我に何を為られん事を欲するぞ、と曰ひしに賢者は、ラツボニ、我目を見えん事を、と云へり。五二 イエズス之に向ひて、往け、汝の信仰汝を救へり、と曰ひしかば、彼忽見る事を得て途中までイエズスに従ひ行けり。

第二篇 イエズスの最後の週間

第一項 イエズスエルサレムにて歓迎せられ給ふ

第一章 一行橄欖山の下にて、エルサレムとペツファセとベタニアとに近づける時、イエズス二人の弟子を遣はし給ふとて、二之に曰ひけるは、向の邑に往け、然て其處に入らば、直に未人の乗らざる小驢馬の繋がれたるに遣はん、其を解きて牽來れ。三 若人ありて、何を為すかと云はば、主之を要す、と云へ、然らば直に其を此處に遣はさんと。四 弟子等往きて、門前の辻に小驢馬の外に繋がれたるに遇ひて、之を解きけるに、五 其處に立たる人々の中に、汝等小驢馬を解きて何かとする、と云ふ者ありければ、六 弟子等イエズスの命じ給ひし如く云ひしに、人々之を

容せり。七斯て小驢馬をイエズスの許に牽來り、己が衣服を其上に被けしかば、イエズス之に乗り給へり。ハ多くの人己が衣服を道に鋪し、或人々は樹より枝を伐落して道に鋪きたりしが、九先に立ち後に従ふ人々呼はりて、ホザンナ、〇主の名によりて來れる者は祝せられ給へ、我等の父ダヴィドの來る國は祝せられよ、最高き處にホザンナ、と云ひ居たり。

第二項 イエズス審判權を示し給ふ

一 イエズスエルザレムに入り、二 神殿に至りて徧く見廻し給ひしに、時既に夕暮なりしかば、十二人と共にベタニアに出で給へり。二 翌日一同ベタニアを出づる時、イエズス飢ゑ給ひしが、三 遙に葉ある無花果樹を見て、是に何をか見出だす事もやと、其處に至り給ひしに、葉の外に何をか見出だし給はざりき。其は無花果の期にあらざればなり。四 イエズスはに言ひて、今より後何時までも汝の實を食ふ人あらざれ、と曰ひしを弟子等聞きたりき。五 一同エルザレムに至り、イエズス神一殿に入り給ひて、殿内に売買する人々を逐出し始め、兩替屋の案と鴿売る人々の榻とを倒し給ひ、六 器を携へて「神一殿を通る事を何人にも許し給はず、七 彼等に教へて曰ひけるは、録して「我家は萬民に祈の家と稱へられん」とあるにあらずや、然るに汝等之を強盜の巢窟と為せり、と。八 司祭長律法學士等之を聞き、如何にしてかイエズスを亡ぼさんと相謀り居たり、其は群衆拳

りて其教を感嘆するによりて、彼を怖れたればなり。一九夕暮にはイエズス市より出で給ひしが、二 朝弟子等通りかかりて、彼無花果樹の根より枯れたるを見しかば、三 ベトロ思出して、ラビ看給へ、詛ひ給ひし無花果樹枯れたり、と云ひしに、三 イエズス答へて曰ひけるは、神を信仰せよ、三 我誠に汝等に告ぐ、誰にてもあれ此山に向ひ、汝抜けて海に投ぜよと云ひて、其心に逡巡がず、我が云ふ所は何にても成るべしと信せば、其事必成らん。四 故に我汝等に告ぐ、汝等何事をも祈りて求むれば悉く得べしと信ぜよ、然らば其事必汝等に成らん。五 又祈らんとて立つ時、人に對して恨あらば之を宥せ、是天に在す汝等の父も汝等の罪を赦し給はん為なり。六 汝等若宥さずば、天に在す汝等の父も汝等の罪を赦し給はじ、と。二七 一同再エルザレムに至りしが、イエズス神一殿の内を歩み給ふ時、司祭長、律法學士、長老等近づきて、二八 云ひけるは、汝何の權を以て是等の事を為すぞ、又是等の事を為すべく、誰か、此權を汝に授けしぞ。二九 イエズス答へて曰ひけるは、我も一言汝等に問はん、我に答へよ、然らば、我何の權を以て是等の事を為すかを告げん。三〇 ヨハネの洗禮は天よりせしか、人よりせしか、然らば何ぞ彼を信ぜざりしと云はれん、三一 人よりと云はんか、人民に憚る所ありと。其は皆ヨハネを眞に預言者と認められたばなり。三二 斯てイエズスに答へて、我等之を知らず、と云ひしか

ば、イエズス答へて、我も何の権を以て此事等を為すかを汝等に告げず、と曰へり。

第二章 イエズス、喩を以て彼等に語出で給ひけるは、或人葡萄酒を造りて、籬を環らし、酒酔を堀り、物見台を設け之を小作人に貸して遠方へ旅立ちしが、二季節に至り、小作人より葡萄酒の果を受取らしめんとて、一人の僕を彼等に遣はししに、三小作人等之を捕へて打ち、空手にて逐歸せり。四 再他の僕を遣はししに、彼等又其頭を傷け、大に之を辱めたり。五 更に他の僕を遣はししに、彼等之をも殺し、尚其他數人の「使」をも、或は打ち或は殺せり。六 爰に尚一人の最愛の子ありければ、彼等我子をば敬ふならん、とて最後に之をも遣はししに、七小作人等語合ひけるは、是相續人なり、いざ來れかし彼を殺さん、然らば家督は我等の有と成るべし、と。八 乃ち捕へて之を殺し、葡萄酒の外に擲てり。九 然れば葡萄酒の主如何に之を處分せんか。彼は當に來りて、小作人等を打亡ぼし、葡萄酒を他人に貸與ふべし。一〇 汝等未此「聖」書を読まざるか、即「家を建てる人々の棄てし石は、隅の首石と為られたり。二 是は主の手に為されし事にて、我等の目には不思議なり」とあるなり、と。一 二 司祭長律法學士等は、イエズスが己等を斥して此喩を語り給ひし事を悟りたれば、之を捕へんと謀りたりしも、群衆を懼れたり。斯て遂に彼を舍きて去りしが、三 言質を捉へん為に、フアリザイ人とヘロデの徒との中より、或人々をイエズスの許

に遣はししに、彼等至りて是に云ひけるは、師よ、汝が眞實にして誰をも憚らざることは我等之を知る、其は人の面を見ず、眞理によりて神の道を教へ給へばなり。四 セザルには税を納むべきか、又は之を納めざるべきか、と。五 イエズス彼等の狡猾を知りて、汝等何ぞ我を試むるや。デナリオを持來りて我に見せよ、と曰ひしかば、六 彼等之を贖せり。然て曰ひけるは、此像と銘とは誰のなるぞ、と。彼等セザルのなりと云ひしに、七 イエズス答へて、然らばセザルの物はセザルに還し、神の物は神に還せ、と曰ひしかば、彼等大いにイエズスを感歎し居たり。一八 復活なしと主張せるサドカイ人等、イエズスの許に至り、問ひて云ひけるは、一 九 師よ、モイゼの我等に書殘しし所によれば、若人の兄弟死して妻を後に遣し、子を遣さざる時は、其兄弟彼が妻を娶りて兄弟の為に子を挙げべし、とあり。二〇 然るに兄弟七人ありて、兄妻を娶り子を遣さずして死し、三 其次の者之を娶りて亦子を遣さずして死し、第三の者も亦斯の如くにして、三 七 人同じ様に之を娶りしかど、子を遣さず、最後に婦も亦死せり。三 斯て復活の時彼等復活せば、彼婦は誰の妻となるべきか、其は七人皆之を娶りたればなり、と。二四 イエズス答へて曰ひけるは、汝等は聖書をも神の能力をも知らざるが故に誤れるに非ずや。二五 蓋死者の中より復活したらん時には、娶らず嫁がず天に於る天使等の如し。二六 汝等死者の復活する事に就きては、モイゼの書中、荆棘の篇に神が彼に曰

ひし所を讀まざりしか、即 曰へらく、我はアブラハムの神、イザアクの神ヤコブの神なり」と、二七 死者の神には非ず、生者の神にて在す。然れば汝等大いに誤れり、と。二八 一人の律法學士は、サドカイ人等の論じ合へるを聞き、イエズスの善く彼等に答へ給ひしを見て、是に近づき、凡ての掟の中、第一なるものは孰ぞ、と問ひしに、二九 イエズ答へて曰ひけるは、凡ての掟の中第一なるものは即、「イスラエルよ聴け、主なる汝の神は唯一の神なり。三〇 汝の心を盡し、魂を盡し、意を盡し、盡して能力を盡して、主なる汝の神を愛すべし」と、是第一の掟なり。三一 第二も是に同じく、「汝の近き者を己の如く愛すべし」と是なり。是等より大いなる掟は他に在る事なし、と。三二 律法學士云ひけるは、善し、師よ、汝の曰へる所は眞なり。實に神は唯一にして、彼の外他の「神」なし。三三 又心を盡し、智慧を盡し、魂を盡し、力を盡して之を愛すべし、又近き者を己の如く愛すべし、凡ての燔祭及犠牲に優れり、と。三四 イエズ彼が賢く答へしを見て、汝は神の國に遠からず、と曰ひしが、此後敢てイエズスに問ふ者なかりき。三五 イエズ「神」殿に於て教へつつ居給ひし時、答へて曰ひけるは、律法學士等は如何ぞキリストをダヴィドの子なりと云ふや。三六 蓋ダヴィド聖靈によりて自ら曰く、「主我主に曰へらく、我汝の敵を汝の足台と為すまで、我右に坐せよ」と。三七 斯くダヴィド自らキリストを主と稱ふるに、是如何にして其子ならんや、と。 夥しき群衆 欣びて之を聞け

り。三八 イエズ教を説きて人々に曰ひけるは、律法學士等に用心せよ、彼等は長き袍を着歩き、衢にて敬禮せらるる事、三九 會堂にて上座を占むる事、宴席にて上席に着く事を好み、四〇 長き祈に託けて寡婦等の家を食盡すなり。彼等は一人長き審判を受くべし、と。四一 イエズ、寶錢箱の向に坐して、群衆の錢を投入する状を眺め居給へるに、富者の多くは多分に投入したりしが、四二 一人の貧しき寡婦來りて、二ミスタ 即三厘計を入れしかば、四三 イエズ弟子等を集めて曰ひけるは、我誠に汝等に告ぐ、此貧しき寡婦は、寶錢箱に投入れたる凡ての人よりも多く入れたり。四四 其は凡ての人は、其餘れる中より入れしに、此婦は其乏しき中より、絶て有てる物、己が生計の料を悉く入れたればなり、と。

第三項 エルサレムの滅亡等の預言

第一三章 イエズ「神」殿を出で給ふに、弟子の一人、師よ、視給へ、此石は如何に、此構造は如何に、と云ひしかば、ニイエズ答へて曰ひけるは、此一切の大建築を見るか、一の石も崩れずして石の上に遺されじ、と。三二 イエズ橄欖山に於て、「神」殿に向ひて坐し給へるに、ペトロヤコボヨハネアンデリア特に是に問ひけるは、四 此事等は何時あるべきぞ。而して事の皆果され始めん時に、如何なる兆あるべきぞ、我等に告げ給へ、と。五 イエズ答へて彼等に曰ひけるは、汝等人に惑はされじと注意

せよ。六 其は多くの人我名を冒し來りて、我はキリストなりと云ひて、多くの人を惑はすべければなり。七 汝等戦争及戦争の噂を聞きて懼るる勿れ、此事等は蓋有るべし、然れど終は未至らざるなり。八 即 民は民に、國は國に起逆ひ、地震飢饉處々にあらん、是等は苦の始なり。九 汝等 自省みよ、蓋人々汝等を衆議所に付し、汝等は諸會堂にて鞭たれ、我為に證據として、総督と王侯との前に立たんとす。一〇 然て福音は先萬民に宣傳へられるべし。一一 人々汝等を引きて付さん時、何を云はんかと預 案すること勿れ、唯其時汝等に賜はらん事を云へ、其は言ふ者は汝等に非ずして聖靈なればなり。一二 兄弟は兄弟を、父は子を死に付し、子等は兩親に立逆ひ、且之を殺さん。三 汝等我名の為に凡ての人に憎まれん。然れど終まで耐忍ぶ人は救はるべし。一四 汝等、最憎むべき荒廢の、立つべからざる處に巖然たるを見れば、読む人は悟るべし。其の時ユデアに居る人々は山に遁るべし、五 屋の上に居る人は家の内に下り、家より何物をか取出さんとて内に入るべからず。一六 畑に居る人は其上衣を取らんとて歸るべからず。一七 其日に當りて懐胎せる人、乳を哺する人は禍なる哉。一八 此事の冬に起らざらん事を祈れ。一九 其は其日に際して、神が「萬物を一創造し給ひし開闢の始より今に至るまで曾て有らず、後にも復有らざらん程の難あるべければなり。二〇 主若其日を縮め給はずは、救はるる人なからん。然れど特に選み給ひし、選まれたる人々の為に、其日を縮め

給へり。二 其時汝等に向ひて、看よキリスト此處に在り、看よ彼處に在り、と云ふ者ありとも之を信すること勿れ。三 其は僞キリスト、僞預言者等起りて、能ふべくは、選まれたる人々をさへ惑はさんとて、大いなる徴と不思議なる業とを為すべければなり。三 然れば汝等省みよ。我 預め一切を汝等に告げたるぞ。一四 其時、斯る患難の後、日晦み、月光光を與へず、一五 空の星隕ち、天に於る能力動揺せん、一六 其時人々は、人の子が大いなる権力と榮光とを以て、雲に乗り來るを見ん。一七 時に彼其使等を遣はし、地の極より天の極まで、四方より其選まれたる人を蒐集めしめん。一八 汝等無花果樹より喻を學べ、其枝既に柔きて葉を生ずれば、夏の近きを知る。一九 斯の如く、此事等の成るを見れば、汝等亦其近くして門に至れるを知れ。三〇 我誠に汝等に告ぐ、此事等の皆成るまでは現代は過ぎざらん。三一 天地は過ぎん、然れど我言は過ぎざるべし。三二 其日其時をば、天に於る天使等も、子も、何人も知らず、唯父のみ一之を知り給ふ。三三 汝等注意し、警戒し、且祈禱せよ、蓋期の何時なるかを知らざればなり。三四 其は恰も人、其家を去りて遠方に旅立つに當り、僕等に命じて、各其務を預ち充て、門番には警戒する事を命じたるが如し。三五 然れば汝等警戒せよ、家の主の來るは何時なるべきか、夕暮なるか夜半なるか、將鷄鳴く頃なるか朝なるか、之を知らざればなり。三六 恐くは、彼處に來りて汝等の寝ねたるを見ん。三七 我汝等に云ふ所を凡ての人に云ふ、警戒せ

よ」と曰へり」。

第四項 イエズスの受難の預備

第一章一然て過越と無酵麴との祝 最早二日の後にあるべければ、司祭長律法學士等、如何に詭りてかイエズスを捕へ且殺すべき、と相謀りたりしが、二「祝日には之を為すべからず、恐くは人民の中に騒動起らん」と云ひ居たり。三イエズスベタニアに在りて、癩病者シモンの家にて食卓に就き給へるに、一人の女 價高き種ナルドの香油を盛りたる器を持ちて來り、其器を破りて彼が頭に注ぎしかば、四 或人々心に憤りて、何の為に香油を斯は費したるぞ、五 此香油は三百デナリオ以上に売りて、貧者に施し得たりしものを、と云ひて、身顛しつゝ此女を怒りたるに、六 イエズス曰ひけるは、此女を措け、何ぞ之を累はずや。彼は我に善業を為ししなり。七 其は貧者は常に汝等の中に在れば、隨時に之を恵むことを得べけれど、我は常に汝等の中に居らざればなり。八 此女は、其力の限を為して、葬の為に預め我身に油を注ぎたるなり。九 我誠に汝等に告ぐ、全世界何處にもあれ、福音の宣傳へられん處には、此女の為しし事も其記念として語りるべし、と。一〇 時に十二人の一人なるイスカリオテのユダ、イエズスを司祭長等に売らんとて、彼等の許に至りしが、二 彼等之を聞きて喜び、金を與へんと約せしかば、ユダ如何にして機好くイエズスを付さんかと、企み居たり。三 斯て無酵麴

の祝の首の日、即過越一の羔一を屠る日、弟子等イエズスに向ひ、我等が何處に往きて過越の食を汝の為に備へん事を欲し給ふか、と云ひしかば、三 イエズス二人の弟子を遣はすとて、是に曰ひけるは、市に行け、然らば水瓶を肩にせる人汝等に遇はん、其後に從ひて行き、一四 何處にもあれ、彼が入る家の主に向ひて云へ、師曰く、我が弟子と共に過越を食すべき席は何處なるぞ、と。一五 然らば、彼既に整えたる大なる高間を汝等に示さん、其處にて我等の為に備へよ、と。一六 弟子等出でて市に至りしに、遇ふ所イエズスの曰ひし如くなりしかば、食事の準備を為せり。一七 夕暮に及びて、イエズス十二人と共に至り、一八 一同席に着きて食しつゝあるに、イエズス曰ひけるは、我誠に汝等に告ぐ、汝等の中一人、我と共に食するもの、我を付さんとす、と。一九 彼等憂ひて、各我なるかと云出でしに、二〇 イエズス彼等に曰ひけるは、十二人の一人にして、我と共に手を鉢に着くるもの、即是なり。二一 抑人の子は、己に就きて録されたる如く逝くと雖、人の子を付す者は禍なる哉、此人生れざりしならば、寧其身に取りて善かりしものを、と。二二 弟子等の食するに、イエズス麴を取り、祝して之を擘き、彼等に與へて曰ひけるは、取れよ汝等、是我體なり、と。二三 又杯を取り、謝して彼等に與へ給ひ、皆之を以て飲みしが、二四 イエズス彼等に曰ひけるは、是衆人の為に流さるべき新約の我血なり。二五 我誠に汝等に告ぐ、神の國にて、汝等と共に新なるものを飲まん日までは、我

今より復此葡萄の液を飲まじ、と。二六 斯て賛美歌を誦へ畢り、彼等橄欖山に出行きしが、二七 イエズス曰ひけるは、汝等皆今夜我に就きて躡かん、其は録して「我牧者を撃たん、斯て羊散らされん」とあればなり、二八 然れど我復活したる後、汝等に先だちてガリラアに往かん、と。二九 ペトロイエズスに向ひ、假令皆汝に就きて躡くとも、我は然らず、と云へるを、三〇 イエズス曰ひけるは、我誠に汝に告ぐ、汝、今日今夜、鶏二たび鳴く前に、必ず三次我を否まん、と。三一 彼尚言張りて、假令汝と共に死すとも、我は汝を否まじ、と云ひければ、一同も亦齊しく云ひ居たり。

第五項 イエズスの御受難

三 彼等ゲッセマニと云へる田舎家に至るや、イエズス弟子等に向ひ、我が祈る間、汝等此處に坐せよ、と曰ひて、三二 ペトロとヤコボとヨハネとを随へ行き給ひしに、畏れ且忍びがたくなりて、三三 彼等に曰ひけるは、我魂死ぬばかりに憂ふ。汝等此處に留りて醒めて在れ、と。三四 斯て少しく進みて、地に平伏し、叶ふべくば己より此時の去らん事を祈り給ひしが、三六 又曰ひけるは、アバ、父よ、汝は総て能はざる事なし、此杯を我より去らしめ給へ、然れど我が思ふ所の如くにはあらで、思召す儘なれかし、と。三七 斯て來り給ひて、弟子等の眠れるを見、ペトロに曰ひけるは、シモン 汝眠れるか、我と共に一時間を醒め居る

能はざりしか。三八 汝等誘惑に入らざらん為に醒めて祈れ、精神は逸れども肉身は弱し、と。三九 復往きて、同じ詞を以て祈り給ひしが、四〇 復返りて弟子等の眠れるを見給へり。蓋彼等の目疲れて、イエズスに如何に答ふべきかを知らざりしなり。四一 三度目に來りて彼等に曰ひけるは、今は早眠りて息め、事足り、時は來れり、今や人の子罪人の手に付されんとす、四二 起きよ、我等往かん、すは我を付さんとするもの近づけり、と。四三 イエズス尚語り給ふに、十二人の一人なるイスカリオテのユダ來り、司祭長律法學士長老等の許より來れる夥しき群衆劍棒などをもちて之に伴へり。四四 イエズスを売りたる者、曾て彼等に合圖を與へて、我が接吻する所の人其なり、捕へて確と引付け、と云ひたりしが、四五 來りて直にイエズスに近づき、ラビヤかれ、と云ひて接吻せしかば、四六 彼等イエズスに手を掛け、之を捕へたり。四七 側に立てる者の一人、劍を抜き、大司祭の僕を撃ちて其耳を切落ししが、四八 イエズス答へて群衆に曰ひけるは、汝等強盜に一向ふ一如く、劍と棒とをもちて我を捕へに出來りしか、四九 我日々に一神一殿に於て、汝等の中に在りて教へたりしに、汝等我を捕へざりき。但是「聖」書の成就せん為なり、と。五〇 時に、弟子等彼を舍きて、皆遁去れり。五一 一人の青年肌に広布を纏ひたる儘イエズスに従ひたりしが、人々之をも捕へしかば、五二 広布を抛棄て、裸にて逃れ去れり。五三 斯て彼等、イエズスを大司祭の許に引行きしに、司祭律法學士長老

等、皆此處に集りしが、五四 ペトロ口遙にイエズスに従ひて、大司祭の中庭までも入込み、僕等と共に坐して火に燠り居り。五五 大司祭等及議會拏りて、イエズスを死に付さんとし、之が證據を求むれども、得ざりき。五六 蓋數多の人、彼に對して偽證すれども、其證據一致せず、五七 又或者等起ちて彼に對して偽證し、五八 彼は手にて造れるこの「神」殿を毀ち、三日の中に別に手にて造らざるものを建てんと云へるを、我等聞けり、と云ひしも、五九 彼等の證言一致せざりき。六〇 大司祭眞中に立上り、イエズスに問ひて、彼等より咎めらるる所に對して、汝は何事を答へ給はず、大司祭再問ひて、汝は祝すべき神の子キリストなるか、と云ひしかば、六一 イエズスはに曰ひけるは、然り、而して汝等、人の子が全能に在す神の右に坐して、空の雲に乗り來るを見ん、と。六三 茲に於て大司祭己が衣服を裂き、我等何ぞ尚證人を求めんや。六四 汝等は冒流の言を聞けり。之を如何に思へるぞ、と云ひしに一同、イエズスの罪死に當ると定めたり。六五 斯て或者等はイエズスに唾し、御顔を覆ひ、預言せよ、と云ひて、拳にて撃ちなどし始め、僕等は平手にて之を打ち居たり。六六 然てペトロは下なる庭に居りしが、大司祭の下女の一人來りて、六七 ペトロの火に燠れるを見しかば、之を熟視めて、汝もナザレトのイエズスと共に在りき、と云ひたるに、六八 彼否みて、我は知らず、汝の云ふ所を解せず、と云ひしが、馳て庭の

前に行きしに、鷄鳴けり。六九 又或下女彼を見て、側に立てる人々に向ひ、此人は彼等の徒なり、と云出でけるを、七〇 ペトロ又否めり。暫時ありて、傍に立てる人々又ペトロに向ひ、汝は實に彼等の徒なり、齊しくガリラヤ人なれば、と云ひしかば、七二 ペトロ詛ひ且誓出でて、我汝等の云へる彼人を知らず、と云ひしが、七二 忽 鷄 二次鳴けり。斯てペトロ、鷄 二次鳴く前に汝三次我を否まん、とイエズスの曰ひたりし御言を思出でて、泣出せり。第一章 天明けて直に、大司祭等は、律法學士長老等及全議會と謀りてイエズスを縛り、召連れてピラトに付ししが、ニピラトイエズスに向ひ、汝はユデア人の王なるかと問ひしに、答へて、汝の云へる一如し、と曰へり。三 斯て大司祭等數多の事を以て訟へければ、四、ピラト復イエズスに問ひて、汝は何をも答へざるか、彼等の汝を訟ふる事柄の如何ばかりなるかを看よ、と云ひしも、五 イエズス尚何をも答へ給はざりしかば、ピラトは之を感嘆し居たり。六 然て祭日に當り、総督が、人々の乞ふ所の囚人一個を、彼等に積すの例ありしが、七 茲に一揆の時人を殺して、一揆の者等と共に入獄したるバラバといへる者ありき。八 群眾出頭して例の如く為られん事を願出でしに、九、ピラト答へて、汝等、ユデア人の王を我より積されん事を欲するか、と云へり。一〇 是大司祭等が嫉によりて之を付したることを知ればなり。二 然るに大司祭等、寧バラバを己等に積さしむべく、

群衆を唆ししかば、二、ピラト又答へて、然らばユデア人の王を我が如何に處分せん事を欲するか、と云ひしに、三、彼等又十字架に釘けよ、と叫びたり。四、ピラト、彼は何の惡を爲ししぞ、と云ひたれど、彼等益々、彼を十字架に釘けよ、と叫び居たり。五、ピラト人民を満足せしめんと欲して、バラバを彼等に釈り、イエスをば鞭ちて後、十字架に釘けん爲に引行せり。六、是に於て兵卒等、イエスを廳の中庭に引出だして、全隊を召集め、七、イエスに赤き袍を着せ、茨の冠を編みて冠らせ、一、ハユデア人の王よ安かれ、と云ひて、禮し始め、一九尚輩もて其頭を撃ち、唾吐きかけ、跪きて拜し居たり。二〇、嘲弄して後、赤き袍を纏ぎて、原の衣服を着せ、十字架に釘けんとして引出ししが、二、一個のシレネ人、名をシモンと呼びて、アレキサンデルとルフォとの父なるもの、田舎より來りて通りかかりければ、強て是に其十字架を負はせ、三、イエスを、ゴルゴタと云ふ處に引行けり。ゴルゴタは(カルヴァリオ)即 髑髏の處と訳せらる。三又没薬を和ぜたる葡萄酒を、イエスに飲ましめんとしたれど、受け給はざりき。四、斯て之を十字架に釘くるや、誰が何を取るべきと、籤を抽きて其衣服をわけてり。五、九時頃イエスを十字架に釘けしが、六、其罪標にはユデア人の王と記されたりき。二七、是と共に二人の強盜、一人は其右に、一人は其左に十字架に釘けられたり。二八、斯て「聖」書に、「彼は罪人に列せられたり」とある事成就せり。二九、往來の人タイエスを罵り、首

を揺りて云ひけるは、呸神殿を毀ちて三日の内に建直す者よ、三〇、十字架より下りて自らを救へ、と。三一、大司祭等も亦同じく嘲りて、律法學士等と語合ひけるは、彼は他人を救ひしに、自らを救ふ能はず。三二、イスラエルの王キリスト、今十字架より下りよ、然らば我等見て信ぜん、と。共に十字架に釘けられたる者等も、亦之を罵り居たり。三三、十二時に至り、地上徧く暗黒となりて三時に及びしが、四時にイエス、聲高く呼はりて、エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニと曰へり。是は、我神我神、曷ぞ我を棄て給ひしや、と云ふ義なり。三五、傍に立てる人々の中、或者等聞きて、エリアを呼ぶよ、と云ひけるに、三六、一人走り行きて、酢を海綿に含ませ、韋に附けて飲ましめつつ、措け、エリア來りて彼を下すや否やを見ん、と云ひけるが、三七、イエス聲高く呼はりて、息絶え給へり。三八、時に「神」殿の幕上より下まで二に裂けしが、三九、イエスの對面に立てる百夫長、斯く呼はりて息絶え給ひしを見て云ひけるは、實に此人は神の子なりき、と。四〇、又遙に眺め居たりし婦人等ありて、其中にはマグダレナ、マリア及小ヤコボとヨゼフとの母マリア、並にサロメありき。四一、彼等はイエスのガリラアに居給ひし時、從ひて事へ居りしが、此外にイエスと共にエルザレムに上りたりし婦人も多く居たりき。四二、夕暮に及びて、安息日の前なる用意日なれば、四三、頭立ちたる議員アリマテアのヨゼフ來り、己も神の國を待てる者なれば、憚らずしてピラトの許に至り、イエスの屍を求め

しが、四四ピラトはイエズス最早死亡したりやと訝り、百夫長を召して、既に死したりやと問ひ、四五百夫長より聞きりて後、ヨゼフに其屍を與へたり。四六ヨゼフ布を買ひて、イエズスを下して其布に包み、岩に鑿りたる墓に納め、其墓の入口に石を転ばし置けり。四七マグダレナ、マリヤとヨゼフの「母」マリヤとは、イエズスの置かれ給ふ處を眺め居たりき。

第三篇 イエズスの御復活及御昇天

第一六章 安息日過ぎて後マグダレナ、マリヤとヤコボの母マリヤとサロメと往きて、イエズスに塗らんとて香料を買ひ、二一週の首の日に、朝早く出でて日既に昇れる頃墓に至り、三誰か我等の為に墓の入口より石を転ばし退くべき、と互いに云ひ居りしが、四目を翔けて見れば、石は既に取除きてあり、其は甚だ巨いなるものなりき。五斯て墓に入るに及びて、右の方に白き衣服を着たる少年の坐せるを見て、驚怖れしかば、六彼婦人達に云ひけるは、怖ること勿れ。汝等は十字架に釘けられ給ひしナザレトのイエズスを尋ぬれども、彼は復活し給ひて、此處には在さず。其置かれ給ひし處を見よ。七但往きて、其弟子等とペテロとに至り、彼は汝等に先ちてガリラヤに往き給ひ、曾て汝等に曰ひし如く、汝等彼處にて彼を見んと告げよ、と。八婦人等怖れ戦きつつ墳より逃出でしが、恐怖の為に何事も人に語

らざりき。九然てイエズスは一週の首の日の朝復活し給ひて、先マグダレナ、マリヤに現れ給ひしが、是曾て七箇の悪魔を其身より逐出されし婦なり。一〇彼往きて、イエズスと偕に在りし人々の哀哭きつつあるに告げしかど、二彼等之を聞きて、イエズスが活きて此婦に見え給ひし事を信ぜざりき。三其後彼等の中の二人、田舎に往かんとして歩む途中、イエズス異なる姿にて現れ給ひしを、三彼等往きて他の人々に告げしかど、亦之をも信ぜざりき。四最後にイエズス、彼十一人の會食せるに現れ給ひ、己が復活し給へるを見たる人々の言を信ぜざりしを以て、彼等の不信仰と、心の頑固なる事を咎め給へり。五斯て之に曰ひけるは、汝等、全世界に往きて、凡ての被造物に福音を宣べよ。一六信じ且洗せらるる人は救はれ、信ぜざる人は罪に定められん。一七然て信する人々には是等の徴伴はん、即ち彼等は我名によりて悪魔を逐払ひ、新しき言語を話し、一八蛇を捕へ、死毒を飲むも身に害なく、病人に按手せば其病癒えん、と。一九彼等に語り給ひて後、主イエズス天に上げられ給ひて、神の右に坐し給ふ。二〇弟子等は出立して、徧く教を宣べしが、主力を加へ給ひて、伴へる徴によりて言を證し給ひたりき。